

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
麻生情報ビジネス 専門学校北九州校		平成8年3月4日		富田 博之		〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999															
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士														
工業	工業 専門課程		システムエンジニア科			平成19年文部科学省 告示第21号	-														
学科の目的	情報処理技術を中心に、システム開発について基礎から応用まで幅広く学習し、高度な知識に加え論理的思考力を身に付ける。また、高度情報化社会に対応した国家資格や各種ベンダー資格を取得し、高いレベルのシステムエンジニアやプログラマーを目指す。																				
認定年月日	平成27年2月17日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技													
	3年 年間		2520時間	1204時間		1316時間	0時間	0時間	0時間												
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数											
90人		89人		1人		3人		7人		10人											
学期制度	■前期: 4月1日から8月31日まで ■後期: 9月1日から3月31日まで				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価														
長期休み	■夏季: 8月 1日~8月31日 ■冬季: 12月22日~1月 5日 ■春季: 3月 1日~ 3月15日				卒業・進級 条件		ア. 指定科目すべての修得 イ. 学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および学科教員との個別ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。				課外活動		■課外活動の種類 ボランティア等 ■サークル活動: 有														
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 富士ソフト株式会社など IT業界				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)														
	■就職指導内容 担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、相談を行っている。																				
	■卒業者数 29 人 ■就職希望者数 29 人 ■就職者数 29 人																				
	■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他																				
(平成 30 年度卒業生に関する 令和元年5月1日 時点の情報)						<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>29名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術謝試験</td> <td>③</td> <td>18名</td> <td>5名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	29名	18名	応用情報技術謝試験	③	18名	5名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
基本情報技術者試験	③	29名	18名																		
応用情報技術謝試験	③	18名	5名																		
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 平成30年5月1日時点において、在学者92名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者91名(平成31年3月31日卒業者を含む)				■中退率 0 %		■中途退学の主な理由 退学者なし														
	■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。 学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																				
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																				
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoiuku.ac.jp/abkc/subject/se/																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるIT業界においては、情報系分野の基礎理論と基礎知識の修得に加え、現場で必要とされている最新技術の修得や問題解決能力が求められる。そのような人材を育成するため、企業と連携し教育の質を確保する。また、本校では専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

また、業界で仕事をされている兼任教員や、学生の就職先企業の方との意見交換を随時行う。さらに、就職先企業に対しお客様アンケートを実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによつて得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。委員会では、以下に示す事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

教育課程編成委員会の意見は、主任等が主宰する各学科または各系のカリキュラム会議において検討し、カリキュラムの改善(授業科目の新設・改編や、授業方法の改善・工夫)などに行き届く限り反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
岡村 宏幸	産業経済局企業立地支援部 企業立地支援課 情報・通信産業担当課長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	①
小峰 正仁	(株)メンバーズ 常務執行役員	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	③
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	平成30年10月1日～ 令和元年9月30日(1年)	③
毛利 俊司	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 校長代行補佐	平成30年10月1日～ 令和元年9月30日(1年)	
美田 佳奈	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 システム系サブリーダー	平成30年10月1日～ 令和元年9月30日(1年)	
中西 伸二	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	
山本 大輔	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)年2回 6月・11月

(開催日時)

第1回 平成30年6月22日(金)全体会17:00-17:20 分科会18:30-19:20

第2回 平成30年11月9日(金)全体会17:30-17:40 分科会17:40-18:20

(開催日時 予定)

第1回 令和元年6月19日(水)全体会17:40-18:00 分科会19:10-20:00

第2回 令和元年11月6日(水)全体会17:30-17:40 分科会17:50-18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成30年度、教育課程編成委員会において、企業の方より次のようなご指摘をいただいた。

- ・スクリプト言語の授業が現在行われていないようなので、取り組んでみたらどうか。
- ・AWS(Amazon Web Services)の認定試験は難しいが、取得する企業も増えている。さわりだけでも勉強しておいた方がよいのではないか。

以上の対策として以下のように次年度の取り組みを行うこととした。

- ・PHPの授業を週2コマ実施する(フレームワークは使わず、ベーシックなPHPにする)。
- ・今年度は仮想環境でLinuxの授業を行っていたが、来年度はAWSを取り入れたクラウドの授業を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等でのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、プログラマやシステムエンジニアに共通して必要となっている最新の技術(特にwebプログラミングに関わる最新の技術)を学ぶ授業を、企業との連携により計画、実施していく。企業において、実際にそれらの技術を活用して業務を行っている方を講師とすることにより、狭い意味での技術だけではなく、企業における開発手法や、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等も学ばせる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

最新技術とともに、企業における開発手法、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等も学ぶことを目的とした科目と

なるよう、企業から派遣される講師と本校教員が、全授業開始前に授業内容、授業方法、評価方法などについて数回の打ち合わせを行い、シラバス(授業計画)を合同で作成する。

実際の授業は本校教員が主となって行うが、企業から派遣される講師にも適宜入っていただく。進捗や学生の状況については、企業から派遣される講師と本校教員の間で話し合い意見交換しながら進めていく。

また、評価についても、出来上がった作品の技術だけを問うのではなく、開発の過程や取組み姿勢も評価できるような評価基準を企業と連携して設定する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
Webデザイン制作演習	基礎技術を学習した後、与えられたテーマのwebサイトを実際に作成、発表を行い、企業の方の講評を頂く。	(株)メンバーズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

システムエンジニア科においては、IT業界において必要とされる、実践的かつ専門的な能力を育成するために必要な知識、技術、技能などについて実施される、職能団体や企業が実施する研修やセミナー等に、積極的に教員を参加させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・研修名「ProSec-IT」(連携企業等：九州大学)
期間：平成30年6月2日～平成31年2月9日 対象(参加者)：教員1名
内容：情報セキュリティプロ人材育成短期集中プログラム(ProSec-IT)

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・研修名：「コーチング 学生指導・保護者対応に生かす」(連携企業等：組織デザイン・ラボ)
期間：平成30年8月30日 対象(参加者)：教員1名
内容：学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める。
学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名:「AWS Academy Educator Training」(連携企業等: Amazon Web Services Japan)
期間: 令和元年7月26日 対象(参加者): 教員1名
内容: AWSの授業で行うラボの実行。AWSの講師によるフォローアップ

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名:「コーチング 学生指導・保護者対応に生かす」(連携企業等: 組織デザイン・ラボ)
期間: 令和2年2月19日 対象(参加者): 教員1名
内容: 学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める。
学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員より、「学生支援について、特に留学生への支援をしっかりと行っていくことが大切」という意見をいただいた。
留学生支援としては、在留カードの更新の担当職員を配置し、取り次ぎ申請を行うなど、現状でも大きな問題は発生していない。ただし、今後留学生が増えることが想定されるため、経済的な支援はもちろん、生活面でのサポートも必要になると考えられる。サポート内容については国際交流センター、日本語学校や本校の留学生からも意見を集約し、具体的内容を構築していくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
瀧口 博俊	福岡県立小倉商業高等学校 校長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	高等学校関係者
清水 佳代子	システムエンジニア科2年生の保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	保護者
西村 祥子	システムエンジニア科平成21年度卒業生	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	卒業生
安部 久美子	地域住民代表	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域住民
小峰 正仁	(株)メンバーズ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業関係者
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	企業関係者
河上 和弘	(株)ジーン 第一開発事業部 事業部長	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	企業関係者
宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	企業関係者

上田 浩二	ガレージインク 代表	平成30年10月1日～ 令和2年9月30日(2年)	企業関係者
伊藤 洋平	(株)安川ビジネススタッフ 営業企画本部 営業企画課長	平成30年10月1日～ 令和2年9月30日(2年)	企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abkc/2019/hyoka.pdf>

公表時期: 令和元年7月22日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、5つの特徴
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/abkc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科)			令和元年度												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎理論	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータの基礎理論を学ぶ	1前	46		○			○			○	
○			アルゴリズムⅠ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ	1前	76		○			○				○
○			ソフトウェアとハードウェア	基本情報技術者試験取得にむけて、ハードウェアやソフトウェアの仕組みや知識を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			ネットワークとセキュリティ	基本情報技術者試験取得にむけて、ネットワークの仕組みやセキュリティの知識について学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			データベース	基本情報技術者試験取得にむけて、データベースの構造や仕組み、内容を学ぶ	1前	46		○			○			○	
○			開発と管理と戦略	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステムの開発手法や管理、システム戦略について学ぶ	1前	30		○			○			○	
○			アルゴリズムⅡ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの応用知識を身につけ、設計ができるようにする	1後	76		○			○				○
○			テクノロジー技術	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステム全般のテクノロジー技術について学ぶ	1後	90		○			○			○	
○			C言語Ⅰ	C言語について、文法と基礎知識を学ぶ	1前	60		○			○				○
○			C言語Ⅱ	C言語について、応用知識を学びプログラムが組めるようになる	1後	76			○		○				○
○			情報処理試験講座Ⅰ(春向)	2年生の春受験の国家試験対策授業	1後	60		○			○			○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報処理試験 特別講座Ⅱ (春向)	2年生の春受験の国家試験対策、直前授業	2 前	76		○			○		○	○	
○			情報処理試験 講座Ⅱ(秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策授業	2 前	30		○			○		○	○	
○			情報処理試験 特別講座Ⅱ (秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策、直前授業	2 後	60		○			○		○	○	
○			情報処理試験 講座Ⅱ(春向)	3年生の春受験の国家試験対策授業	2 後	60		○			○		○	○	
○			情報処理試験 特別講座Ⅲ (春向)	3年生の春受験の国家試験対策、直前授業	3 前	76		○			○		○	○	
○			情報処理試験 講座Ⅲ(秋向)	3年生の秋受験の国家試験対策授業	3 前	30		○			○		○	○	
○			情報処理試験 特別講座Ⅲ (秋向)	3年生の秋受験の国家試験対策、直前授業	3 後	60		○			○		○	○	
○			情報処理活用 Ⅰ	Windowsの基礎知識、Excelの操作方法を学ぶ	1 前	30			○		○			○	
○			情報処理活用 Ⅱ	Excelの関数やグラフ機能など、応用知識を学ぶ	1 後	30			○		○			○	
○			データベース 演習	Accessの操作方法を学ぶ	2 前	16			○		○			○	
○			実務文書作成	実務的な文書作成技法を、WordやExcelを用いて学ぶ	2 前	16			○		○			○	
○			Excel VBA	ExcelのVBAを学び、応用力を身につける	3 前	30			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			C言語演習	C言語のプログラミング実習を行い、実際にプログラムを作成し、知識を深める	1後	30		○			○					
○			Linux基礎	Linuxのコマンドなど、基礎的なことを学習する	3前	30		○			○					
○			Oracle SQL I	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	1後	30		○			○					
○			Oracle SQL II	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	2前	30		○			○					
○			Visual C# I	Microsoft社のVisualStudioから、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ	2前	60		○			○					
○			Visual C# II	Microsoft社のVisualStudioから、C#のプログラミングをより深く学ぶ	2後	30		○			○					
○			システム構築 I	システムの要求定義～設計～開発～テストを、設計書の学習をしながら実際に構築していく	2後	46		○			○					
○			システム構築 II	システムの要求定義～設計～開発～テストを、さらに複雑なシステムを構築して学ぶ	3前	60		○			○					
○			Webデザイン基礎	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ	2前	60		○			○					
○			Webデザイン制作演習	JavaScriptやjQuery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ	2後	60		○			○			○	○	
○			Java基礎	Javaの文法やオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ	1後	60		○			○					
○			Javaプログラミング	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでプログラミングを学ぶ	2前	46		○			○					

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Java応用	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでシステムを開発してみる	2後	46			○		○		○		
○			アプリケーション開発Ⅰ	さまざまなアプリケーション開発技法を学ぶ	2後	46			○		○		○		
○			アプリケーション開発Ⅱ	さまざまなアプリケーション開発技法を学ぶ	3前	30			○		○		○		
○			Webアプリケーション開発	web環境で動くアプリケーションの開発技法を学ぶ	3前	76			○		○			○	
○			Webシステム構築Ⅰ	システムの要求定義～設計～開発～テストを、設計書の学習をしながら実際にweb環境で動くシステムを構築していく	3後	46			○		○			○	
○			Webシステム構築Ⅱ	システムの要求定義～設計～開発～テストを、設計書の学習をしながら実際にweb環境で動くシステムを構築していく	3後	60			○		○			○	
○			アプリケーション構築Ⅰ	卒業研究に備え、アプリケーション開発について学ぶ	3後	30			○		○			○	
○			アプリケーション構築Ⅱ	卒業研究に備え、アプリケーション開発について学ぶ	3後	30			○		○			○	
○			一般教養Ⅰ	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	1後	16			○		○			○	
○			一般教養ⅡA	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2前	16			○		○			○	
○			一般教養ⅡB	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2後	16			○		○			○	
○			一般教養ⅢA	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	3前	16			○		○			○	
○			一般教養ⅢB	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	3後	16			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			文章表現Ⅰ	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ	2後	16		○			○			○	
○			文章表現Ⅱ	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ	3前	16		○			○			○	
○			時事経済	日本経済新聞を教材とし、新聞の読み方やレポートのまとめ方などを学ぶ	2後	16		○			○			○	
○			ビジネス実務	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ	1後	16		○			○			○	
○			GCBⅠ	グローバルシチズンベーシックⅠ（感謝心と思いやり）について学ぶ	1後	16		○			○			○	
○			GCBⅡ	グローバルシチズンベーシックⅡ（志をたてる）について学ぶ	2前	16		○			○			○	
○			就職実務Ⅰ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	2後	46		○			○			○	
○			就職実務Ⅱ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	3前	46		○			○			○	
○			卒業研究Ⅰ	3年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	3後	76			○		○			○	
○			卒業研究Ⅱ	3年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	3後	76			○		○			○	
合計					61科目		2520単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
ア. 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 学生としてふさわしい生活態度であること。 上記を満たせない者は、他の検定資格、学習態度、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。 ※留年した者は、その学年の全科目を再履修しなければならない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週